

平成 19 年 8 月

映画鑑賞

所長 稲垣 一則

前回のこのコラムに図書館の有用性を書きましたが、その後またまた思わぬ拾いものをしました。

ある日曜日、図書館に本の返却に行くと、玄関先に一枚のチラシが……。一週間後の日曜日 14:00 からの映画鑑賞会のお知らせでした。その映画は伊丹万作監督、主演片岡千恵蔵の「赤西蠣太」。な～んだ、と思われるかも知れませんが、この「赤西蠣太」、実は志賀直哉の短編作品なのです。ずうっと以前に読んだ記憶がよみがえり、「これは見なくては」と早選手帳の予定欄に書き留めました。

内容といえば、有名な「伊達騒動」という仙台藩のお家騒動に纏わる話。伊達兵部をたてる原田甲斐一派と、直系の子二歳の亀千代君を擁する忠臣派、主人公の赤西蠣太は忠臣派の一人であり江戸屋敷で反対派の動向を探る無愛想で醜男の田舎武士という設定。映画では颯爽たる原田甲斐と赤西蠣太を片岡千恵蔵が二役を演じている（ここがこの映画のミソ）のですが、お家騒動を企む甲斐一派の動きをしたための密書を国元へ届けるため帰るのに、黙って逃げたら怪しまれるため、腰元の小江（さざえ）に付け文をしたりとか、いろいろ画策をする様がユ・モラスに画かれている。また、BGMにあの時代（1935年製作）の映画にしては珍しくショパンのピアノ曲を使ったり、所々に歌舞伎の様式美を取り入れたり、伊丹万作の才能が窺える作品でもあります。

当日、一人の係員が一生懸命準備から本番までこなしていましたが、映像時間 78 分の映画に、参加者は 15 人程度でした。もっとも予め用意された座席は 40 席ぐらいで、こんなものかも知れませんが、こうした図書館活動は多いに評価されていいのではないのでしょうか。

本ではわずか 22 頁の短編であり、赤西蠣太と腰元の小江（さざえ）のその後の描き方は映画と異なりますが、多くの人から評価されている作品でもあり、映像にすると一層拡がりをもった物語になります。同じ短編集（ ）に「小僧の神様」というこれもまた有名な短編も収録されています。秤屋の店に奉公している小僧の仙吉に、貴族議員の A が、あることから「鯨」を奢る話ではありますが、人の心に宿る暖かさと揺れる内面の動きを画く秀逸な作品です。

帰り道、ちょっと豊かな気持ちになったようでもあり、もう一度本棚から短編集を探して読み返そう、と思った夏の夕暮れであった。

新潮文庫 「小僧の神様 / 城の崎にて」 全 285 頁

平成 10 年 5 月 15 日 54 刷 460 円

